

ユニセフ新春交流会2024 関西創価小学校6年生による感想文

去る一月二七日に大阪ユニセフ協会主催のユニセフ新春交流会が開かれ、その席上で関西創価小学校六年生七名による作文発表がありました。前年に受けたユニセフ出前授業「もし世界が100人の村だったら」とハンド・イン・ハンド募金参加の体験をもとに、ユニセフから学んだことを作文にまとめました。交流会での発表は大変好評で、参加者から温かい拍手が送られていました。ここで全文をご紹介します。

(表記等は、基本的に原稿通りですが、読みやすさを考慮して行替えなどを加えています。氏名の敬称は略させていただきます。)

ユニセフ活動を通して学んだこと

可兒由美子

テレビから流れてくるとても細い腕の赤ちゃんの映像。

ユニセフと聞いて思い出すのは、何気なく見ていた番組の途中のCMでした。

社会科で国連やユニセフを勉強しました。

もつともつと以前からユニセフという言葉は知っていたかもしれないし、目に触れることもあったかもしれません。

でも私は本当のことは何も知りません

でした。

二学期になって学校でユニセフの出前授業がありました。

そのユニセフの出前授業では、世界中の子どもたちがどれだけの食料を食べて生活しているのか、人種・貧富の差・栄養状態などの割合をグループに分かれて体験したり、一三才の少女が八時間もかけて水を汲みに行っている動画を見たりしました。

特に「世界がもし100人の村だったら」というテーマでグループに分かれて世界の子どもたちが、一日どれだけの食料で生きていくのかを学んだことは心に残りしました。

私のグループは「貧民」でした。私たちがもらったのはたった〇・六gでそれは一円玉にもならないほどの量でした。これを一〇〜一五人で分けないといけないのです。

驚きました。

みんな口々に「少なっ！」と叫びました。

私も心の中で「どうやって分けるの？」そんな心の中です。

私は大富豪がどれだけ持っているのか

気になったので周りを見渡し、探しました。大富豪になった友達は一人で四八個のお菓子を両手に抱えていました。同じチームの友達と「ずるい！うらやましい！少し分けてほしいな。そもそもこんなにいる？」と大富豪を見て言いました。

出前授業の中だけの出来事で、私が「貧民」だったからこそ感じたこともたくさん

ありました。世界では現実にこんなことが起きています。大富豪たちは、富を持っているのに何でみんなと分けられないのでしょうか？

みんなに分けたほうがお菓子はおいしくなると思う。大富豪はきつと四八個のお菓子を食べきれなくて食品ロスになると思う。じゃあ何で格差ができるんだろう？

世界の子どもたちは、着る服もない、十分な食料を食べることも水を飲むこともできない、そして住む家もない。私たちがしている「普通」のことが世界では「普通」じゃないから世界中の子どもたちを守る行動を誰かがやらないといけない。だからユニセフができたんだと思います。

今の私はまだまだ子どもですが、世界の子どもたちと一緒に生きていきたい、もつともつと世界の子どもたちを知りたい、聞いてみたいと思いました。

そんなとき、学校でユニセフ募金のことを聞きました。私はすぐに「やりたい」と思って参加することを決めました

そして、募金活動当日はたくさんのお友達が集まりました。

みんなも私と同じ気持ちなのかなと思うとできるか心配だったけど、ちょっと勇氣が出ました。

いよいよ初めての募金活動が始まりました。

最初は戸惑いながら、声を出すのも恥ずかしかつたので最初の一人が入れてくれるまで苦戦しました。最初に入れてくれた人が「頑張つてね」と言ってくれたので

でも嬉しくなって、ますます頑張ろうと思いました。

ユニセフのことを知ってほしい、たくさん募金が集まりますようにとの願いを込めて、声を出しました。

ユニセフの方からは「よく頑張りました。たくさん募金が集まりました。」と言っていただき、参加して良かったなど思いました。

ユニセフがなくても世界中の子どもたちが平和に、そして平等に、幸せに暮らせる世界が本当は理想だし目指す世界だと思います。

その日まで今まで学んだことを忘れず、自分ができる身近なことに取り組んでいきます。

岡部光昭

ぼくはもともと世界の国々について興味がありました。国旗や国名にそれぞれ特徴があつて、「平和を尊重する」「独立を表している」と深い思いが込められていて、すべてに理由があるというところに惹かれたからです。そこでぼくは二年生の頃、自主的に家庭学習でその国々を一カ国1ページずつ首都や世界遺産、挨拶等、その国の文化を調べて書くことにしました。四年生の終わる頃には、ついに百九十六カ国すべてを書き終えることができました。今は世界遺産の歴史や特徴を調べて、一つにつき一ページずつ書いています。

一体なぜぼくが国調べをこれだけ続けることができたのかというと、初めにお話した理由もありますが、他にも、一カ国書き上げる度に「こんなものまであるんだ」「今日も一つの国を知ることができた」という気持ちで嬉しくなるからです。だから全ての国を制覇したときには「ついに全ての国を知ることができた！」ととても嬉しかったです。今進めている世界遺産調べでも、やはり国と同様に自分で異文化を学ぶのが楽しくて、面白いです。

そんな時に学校で、ユニセフ協会の皆さんによる出前授業が行われました。授業ではまず、「世界が100人の村だったら」というテーマで勉強をしました。世界の貧富や環境の質、住んでいる大陸等の比率を100人に当てはめるとどうなるかというもので、早速全員に「住んでいるところ」「富の量」「水の質」「トイレの質」がどの程度なのか詳しく書かれたカードが一枚ずつ配られ、カードに書かれた内容になりきって大陸別や水、環境の質別などの方法でグループに分かれました。

ぼくは「金持ちに分類されるのは数人しかないな」「自分と同じ『環境が悪い』と書かれたカードが配られた人はこんなにいるんだ」など場所によつての差が激しいこと、特に周りの環境に恵まれていない人が多いことを強く感じました。

それに加えて、何パーセントが難民で何パーセントが不自由のない暮らしができているのかのデータや、アフリカに住んでいる人の日常生活を撮った動画などを見

せてもらいました。さらにお金の分配をお菓子で例えられてとても分かりやすかったです。「世界は危機的状況なんだな」「このままじゃいけないんじゃないか」と悲しくなり、とても印象に残りました。

この授業を通して、まずは「今でも貧困に苦しんでいる人がいるんだ」「SDGsを少しでも進めよう」と意識しようと思えました。それに加え、ゴミの分別、食事を食べきる、喧嘩をしても賢く仲直りする、あいさつや感謝を欠かさないとしようという環境への配慮や世界平和への推進など、思いついたことを少しでも行動に移し、大人になっても忘れないようにしたいと思います。

これからも、世界の国々への興味を持ち、ユニセフの活動にも積極的に参加したいと思っています。そして、語学力を鍛えて世界に関わる仕事をしてみたいと思います。

前田聡美

私は去年、ユニセフのワークショップに参加させていただきました。このワークショップでは、世界の地域の貧困や格差について学ぶことができました。

水・食・富など、世界の先進国と発展途上国の差にとってもおどろきました。

よく、豊かな国が食料をたくさん買い、食べきれず、食品ロスが多い、という話を聞きます。日本も、食品ロスが多いと思うので、私も食べ物を残さず食べて、本当に

食料がほしい国に、食料が行きわたるようになってほしいと思います。

また、私たちと同じくらいの子が毎日、何キロも歩いて、水を取りに行っているため、学校に通えていない動画を見て、今、こうして毎日、学校に通えていることは、当たり前ではない、ということに改めて感じ、感謝の思いでいっぱいになったとともに、早く、その子どもたちが学校に通える環境が整ってほしいと思いました。

事前に、私がユニセフのホームページで調べてみたことによると、今、世界では、地震などの自然災害や紛争などの武力による攻撃により、たくさんの子どもたちが苦しんでいるそうです。その子たちも含めて、いつか、全世界の子どもたちが、安心して、家族と過ごせる日、友達と再会できる日、勉強ができる日が来てほしいと思います。

また、私は、ユニセフぼ金にも、参加させていただきました。

声を張り上げて、呼びかけるのは少し恥ずかしかったです、声が出てくると少しずつぼ金をしてくださる方が増えてきて、やりがいを感じました。

ぼ金をしてくださった方が「頑張っね」などと声をかけてくださり、ますますやりがいを感じながら、頑張ることができました。

また、「少しのお金だけ」と入れてくださる方もいて、その「少し」のお金がポリオから守るワクチンや栄養治療食、汚れた水をきれいにするじょう水ざいなどに変

わって、今、困っている世界中の子どもたちを救うのだと思うと、私も買い物をしたときのおつりだけでも、ぼ金をしてみようと思いました。

中には、千円札を入れてくださる方もいて、「今、困っている世界の子どもたちのために」という思いを、行動に表すことが大事なのだと感じました。

私は、ユニセフのワークシヨップとユニセフぼ金を通して、一人の大きな行動よりもたくさんの方の小さな行動のほうが大事だということを学ばせていただきました。

今、世界には困っている人が、たくさんいます。その、困っている人を助け、平和な世界を、明るい未来を作るために、私は今、できる勉強に精一杯挑戦していきます。また、世界中の人と友情の輪を築き、国対国の紛争が起きない、紛争によって苦しむ人がいない、笑顔があふれる世界を作っていきます。

濱村咲百

私の連絡帳の背表紙を見ると、

「私たちは二〇〇〇年より、考える学習帳の売り上げの一部を、公益財団法人日本ユニセフへ寄付しています。

例えば、ノート約二七冊分の寄付金は、麻疹から子どもを守るためのワクチン一回分に相当します。」と書かれています。

私は、少しのことからでも、世界の子ど

ものためにと、たくさん工夫がされていることを改めて感じました。

私たち、関西創価小学校の六年生は、学校でユニセフの出前授業を受けさせて頂きました。

私は出前授業を通して

「予防や治療ができるはずの病気で命を失ってしまう人がいること」

「綺麗な水が飲めなかったり、使えなかったりすること」

「世界は平等に分け合えばみんな生きていけるのに、今は平等ではないこと」

「水汲みに行くためだけに一日八時間もかけて、学校に行けない女の子がいること」

「食糧不足で亡くなってしまおう子どもが世の中にはたくさんいるということ」

など、多くのことを学びました。また、ユニセフの募金活動にも参加させて頂きました。

私たちは、「世界中で苦しんでいる子どもたちのために！」という思いで募金活動に挑戦しました。

募金をしてくださる人の中には、車椅子の方や、ヘルプマークをつけている方もいました。

私は、募金をしてくださる方々の真心で胸がいつぱいになりました。

私の将来の夢は、世界で輝く建築家になることです。

世界中の困っている人々のための学校と、温かいご飯が食べられて、笑顔で、安心して暮らせる施設を世界中に作りたい

と考えています。

私は出前授業と募金活動を通して、「学校に行けることや、出来立ての給食が食べられることなど、『当たり前』だと思っていることも、世界では当たり前ではないことを改めて学び、今、私たちがこうやって笑顔でいられることに、心から感謝しよう。」

と思いました。

また、「世界中で苦しんでいる人々の分も、一生懸命に勉強をして、親孝行にも挑戦することが私たちの使命」だと思いました。

そして、世界中が希望の笑顔で包まれる日まで、自分にできる挑戦を続け、平和を願い、行動してまいります。

松本一馬

僕は今までユニセフについては、何も知識がありませんでした。ただCMの広告を見て、言葉だけ知っている程度でした。

昨年一月九日に、僕の学校にユニセフの方が来てくださり、出前授業をしてくださいました。授業の内容を聞いていくと、ユニセフの活動の重要さがわかってきました。栄養不足で困っている国があり、家族の生活を支えるために働かなくてはいけない子どもが大勢いることを知りました。また、世界のあちこちでは、貧困によって、小さな命が消えることも知りました。僕が不自由なく使っているお菓子や、ゲームに使うお金で何人もの困っている人た

ちの命を救うことができると知り、心が痛みました。

そして無理なくできることは何かと思考した時、ユニセフ募金活動の話聞き、参加することにしました。当日は、ユニセフ募金に参加した友達と一緒に「ユニセフ募金をよろしく願います。」「世界の子どもたちを救うために募金をよろしく願います。」などの声掛けを頑張りました。

募金活動の後に世界で苦しんでいる人たちのことをもっと知りたいと思いパソコンで調べてみました。世界中では年間約八一〇万人の子どもたちが死に追いやられていて、その大部分はアジア・アフリカなど発展途上国で発生していて、原因は飢え・病気・戦闘の犠牲などであるということを知りました。日本に住む僕にとっては、想像もつきませんでした。僕はこのユニセフの活動や自習を通して、がんばろうと思ったことが二つあります。

一つ目は、水、電気を無駄なく使うことです。僕たちは蛇口をひねるとすぐにきれいな水が出るし、スイッチを押すと簡単に電気がつくのに、世界中の困っている人たちは、遠くまで水をくみに行かないと水も飲めないし、電気を発電するエネルギーもないので夜に明かりを灯すこともできません。だから僕は水や電気の無駄遣いをなくして、安全な水と安定した現代的なエネルギーを使えるように努力したいです。

二つ目は、食べ物を残さないことです。世界中には、お腹が空いても何も食べられない人たちがたくさんいます。そのために

も、いつでも食べたいときに食べられることに感謝して、食べ物を残さず食べようと思います。

最後に僕にとつての平和とは何かを発表させていただきます。僕にとつての平和は、世界中の人々が環境に困らず、戦争が起きず、いじめ・暴力がなく、仲良く毎日が平和に暮らせることだと思います。

これからも世界の人たちのためにできることはなにかと考え、自分ができることから進めていきたいと思っています。

今川由香

私は一二月にあつたユニセフの募金活動に参加させていただきました。募金活動をするのは初めてでとても貴重な体験になりました。

募金活動で私は、募金で救われる人のことや内容などが書かれている紙を配りました。受け取ってくださる方が最初は少なかつたのですが、徐々に受け取ってくださる方が多くなり、持っていた紙は全て配りきる事ができ、とても温かい気持ちになりました。

友だちが募金活動をしているのを見てみると、募金をしてくださる方はとても多くて驚きました。それは、私が下校時などに駅で見る募金活動ではあまり募金されている方がいないからです。

ユニセフの募金活動やユニセフ協会の皆さんの出前授業を通して、世界の子どもたちについて考えました。学校へ通うこと、

お腹いっぱいご飯が食べられること、きれいな水が飲めることも全部、当たり前ではなくて、世界のどこかには学校へ通えない子、ご飯が満足に食べられない子、水が簡単に手に入らない子がいる。心のどこかではわかつていたことだけれど、深く考えることではありませんでした。ユニセフ募金から帰った後、たくさん考えました。私達が行った募金は、はしようふうやポリオなどのワクチンに使われます。日本ではワクチンを受けることができます。しかし世界には、ワクチンを受けられない子がいます。

私は今の世界はとても平和とは言えないと思います。なぜなら世界のどこかで苦しむ子どもたちがいるからです。私は、世界のどこかで苦しむ子どもがいる現状を変えたいです。そのために、少しでもやれることがあるならばしたいと思います。たった100円の募金で救える命があるのなら、私は100円募金します。駅で募金活動をしていけば募金しに行きます。募金活動に参加させていただいた日から私はそう決めて募金に参加をしています。

募金すれば心が温まりました。

募金をしてもらっても心が温まりました。

チラシを受け取っていただいたら心が温まりました。

世界には苦しむ子どもがたくさんいる。

そして、そんな子どもたちがいなくなることを願う人がたくさんいることを、この募金活動や出前授業を通して知ることができました。

今こうして、ここでお話させていただいていることも募金活動に参加させていただいたことも、全て感謝の気持ちでいっぱいです。

学校への通学、ご飯を食べること、きれいな水をのむこと、この私の当たり前は、世界のどこかで苦しんでいる誰かがのぞんでいる生活であること、それをわかった上での行動、生活をこれからもうできるように頑張りたいと思います。